

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	弥生農耕の起源と東アジア - 炭素年代測定による高精度編年体系の構築	研究代表者名	西本 豊弘
-------	------------------------------------	--------	-------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア 高い
- イ やや高い
- ウ やや低い
- エ 低い

意見：
弥生時代の見直し、東アジアにおける日本の位置付け等、大きな歴史の見直しに繋がる潜在力があり、研究推進には高い必要性がある。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア 予定以上に進展している
- イ 概ね予定どおり進展している
- ウ やや遅れている
- エ 遅れている

意見：
研究は予定通り進展しており、これまでの成果においてもすでに水田稲作農耕拡散のありさま、弥生時代についてのニュアンスに富んだ理解などに重要な貢献を行っている。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア 研究経費
- イ 設 備
- ウ 組 織
- エ そ の 他

意見：
特になし

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア 期待以上の成果をあげている
- イ 概ね期待された成果をあげている
- ウ 期待された成果をあげつつある
- エ 期待された成果はあがっていない

意見：
研究は期待通りの成果を挙げており、内容的にも大きな意義をもつものとなっている。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア (×) 有機的に連携が保たれている

イ () あまり有機的に連携が保たれていない

ウ () その他

意見：
チームとしてメンバーが有機的に連携しつつ研究を推進している。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア (×) 効率的・効果的に使用されている

イ () あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ () その他

意見：
研究経費も効果的、効率的に使われているように見える。

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

研究は予定通り進展しており、その成果はすでに弥生時代のニュアンスのある理解、水田稲作の拡散のパターンの理解などに重要な貢献を行うものとなっている。本研究は歴史教科書の書き換えにも繋がる大きな意義をもっており、歴史学、考古学研究者との対話を重ねつつ、慎重かつ迅速に研究を進めていただきたい。また東アジアの他国の研究にとっても大きな意義があり、国際的な連携にも努力していただきたい。